第18回ながしま造形美術展

町民の力作が感動を呼び込む

2年に1度、町民一丸となって取り組む芸術祭、第18回ながしま造形美術展が10月12日、太陽の里ピクニック広場で開幕しました。

今回は自治公民館や学校、PTA、各種団体から87点の作品が出展。流木やスギの葉、ペットボトルなどを使い、趣向を凝らした力作が並びました。

開会式は出水中央高等学校吹奏楽部の演奏で始まり、ながしま造形美術展実行委員会の山崎友喜委員長が「完成までにたくさんの人たちの力があったことを思って、作品を見ていただけるとありがたい」とあいさつ。川添健町長は「ながしま造形美術展を全国にPRできるイベントにしていきたい」と述べました。

式終了後は、勝野眞言審査委員長をはじめ、4人の審査員により、「一般の部」、「PTAの部」、「学校・幼稚園の部」の3部門の審査がありました。

特設ステージで行われた結果発表では、審査員から入賞が読み上げられるたびに拍手や歓声が起こり、制作に携わった仲間同士で握手を交わし、労をねぎらう姿が見られました。

鹿児島市から家族で来場した矢野浩平さんは「ずっと楽しみにしていた。素晴らしい作品が多くてびっくり」と感激した様子でした。

開幕を祝うテープカット

開会式に花を添えた出水中央高等学校吹奏楽部の演奏

［審査員長講評］

皆さんがそれぞれの思いで一生懸命制作する作品が、心を動かし、友情を生み、町づくりに発展する過程が大変面白いと思いました。

地元の資源を使って、いろいろな作品を制作していますが、私は制作している人自身が町の大きな資源だと思っています。

審査については、上位の作品が高得点で並び、審査員と時間をかけて慎重に協議しました。

今回は動物やキャラクターの作品が多く見受けられたように感じましたが、もっといろいろなものが出てくると良いと思いました。

作品の完成度を上げるのではなくて、作る興味を強く持ち、仲間と悩み、考えて生み出されたものが魅力のある作品になっていくんだと思います。

ありがとうございました。

ながしま造形美術展審査員長
勝野　眞言氏
（崇城大学芸術学部教授）

審査員
野島　泉里氏
（崇城大学芸術学部講師）
田中　公人氏
（南日本新聞阿久根支局長）
入田　智子氏
（南日本放送地域プロジェクト部副部長）